

WXBC 第 13 回運営委員会 議事概要

日時	令和元年 10 月 23 日(水) 13:00~15:00
場所	気象庁 5 階 大会議室
出席者	18 名出席 (3 名代理)

<p><b>1. 承認事項</b></p> <p>議題 1. 第 4 回 WXBC 総会、気象ビジネスフォーラムについて</p> <p>議題 2. 関係機関と連携したイベントについて</p> <p>議題 7. 気象データアナリスト（仮称）の育成・確保に向けて</p>
<p><b>2. 報告事項（議題 3～5）</b></p> <p>議題 2. 関係機関と連携したイベントについて（危機管理産業展）</p> <p>議題 3. WG 等の活動状況</p> <p>議題 4. 気象過去データの利用環境について</p> <p>議題 5. 産業界における気象データの利活用状況に関する調査</p> <p>議題 6. えひめ AI・IoT 推進コンソーシアムの取組</p>
<p>&lt;主な意見、補足事項&gt;</p> <p>➢ は、運営委員からの発言を示し、→ は運営委員あるいは事務局からの発言を示す。</p> <p>議題 1. 第 4 回 WXBC 総会、気象ビジネスフォーラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 総会はメッセージが伝わればよしとするのか、集客のため昨年とは異なる魅力的なプログラムとするのか、方針を検討してほしい。</li> <li>➢ フォーラムの基調講演及びトークセッションは集客が期待できるものを。</li> </ul> <p>議題 2. 関係機関と連携したイベント</p> <p>（事務局から議場報告）10 月 3 日に開催した危機管理産業展（RISCON）の特別セミナー「気象データイノベーション：気象データ利活用の未来」は 300 名以上の来場があった。落合陽一氏（筑波大）等と交え AI の説明可能性やテレビの気象情報の変化等について意見交換した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 自分のメリット、企業の利益だけを考えるだけでなく、被害軽減を考えてほしい人もいる。集客や楽しさだけでなく、緊張感も必要では。</li> <li>➢ 様々な産業の展示会に WXBC として入ることで、ニーズを聞くことができるのでは。</li> </ul> <p>議題 3. WG 等の活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 気象庁は新しい数値モデルを導入する際、過去の再予報を行うことで性能を検証するように、気象の世界で AI を利用するにはデータがある限りの期間の過去データを学習させる必要があるのではないか。たった 2、3 年のデータでは 100 年に一度の災害を予測できない。そうした点を研修でも伝える必要があるのでは。</li> <li>→ 「第 1 回 AI チャレンジ！」では「AI ならば何でもできるというわけではない」ということを最初に伝えた上で、気象データ特有の留意点、地形の影響や地域代表性、測定誤差の概要等に言及した。ただ、半日コースということもあり詳細な話はできていない。</li> <li>➢ AI は学習していないもの、過去事例がないものの予測が苦手。今回起きていることが「今までと違う」という程度のことしか言えない。</li> <li>➢ 人材育成サブ WG では「気象データ利用のための環境整備」について議論しており、そこで「何がやりたいかを」起点にした事例集の活用を検討しており、サンプルの作成を始めている。</li> <li>➢ ビジネスマッチングフェアは運営周りの課題は解決された。一方で、参加者の幅、分野を広げ</li> </ul>

ることが新たな課題となった。集客がある場所に出かけていきPRをすることも一案。

#### 議題4. 気象過去データの利用環境について

- 過去データの提供を気象庁で全て行うのは不可能に思われるし、実現しようとするとかかり時間がかかることになる。協力をいただける研究機関や民間企業からデータを取得できるような仕組みも検討しては。  
→ 協力していただけるところがあるのであれば、前向きに検討したい。

#### 議題5. 産業界における気象データの利活用状況に関する調査

- アンケートの質問項目は良く検討を。全業種を対象にしているが、ある程度狙いを絞ることも考えては。
- 部門毎に気象データの利活用状況が異なり、社全体として回答を求められるとどの部門から回答すべきか悩む場合がある。企業の規模や形態の違いを考慮して質問を設定してほしい。

#### 議題6. えひめ AI・IoT 推進コンソーシアムの取組

- グループ加盟する全法人をWXBC会員として扱いたいということか。  
→ その通り。WXBC会員向けページのログイン、閲覧ができるようにしたい。会員数も1法人1会員としてカウントしてもらって構わない。

#### 議題7. 気象データアナリスト（仮称）の育成・確保に向けて

- 名刺に書くことができるようなしっかりとしたものを目指すのかどうか、育成の方法の具体は、はっきりさせた方がよい。仮にWXBCの中で認定を行うとすると、気象データアナリストの認定を誰が行うのかという問題がある。  
→ 「気象データアナリスト」という表現で誤解を招いている部分もあるが、現状教育プログラムとして検討している。講習した結果の扱い方については、引き続き検討したい。
- 民間講習を活用することは問題無い。民間講習は、講習のレベル等も考慮して選ぶ必要がある。また、最近のデータ分析・IT活用能力に関する民間講習は統計と機械学習が中心だが、それだと分析・コンサルティングで終わってしまう。それ以外にも、物理的シミュレーション、ビッグデータを保管するデータベース、データ可視化等に関する技術も必要ではないのか。
- ビジネスで使える人材には、気象に関する知識のみではなく、他業種の知識も必要とされる。
- ビジネスで使える人材育成の講習とするためには、ユーザー企業等から提案してもらおう形もある。長い目で取り組む必要があるのでは。

以上